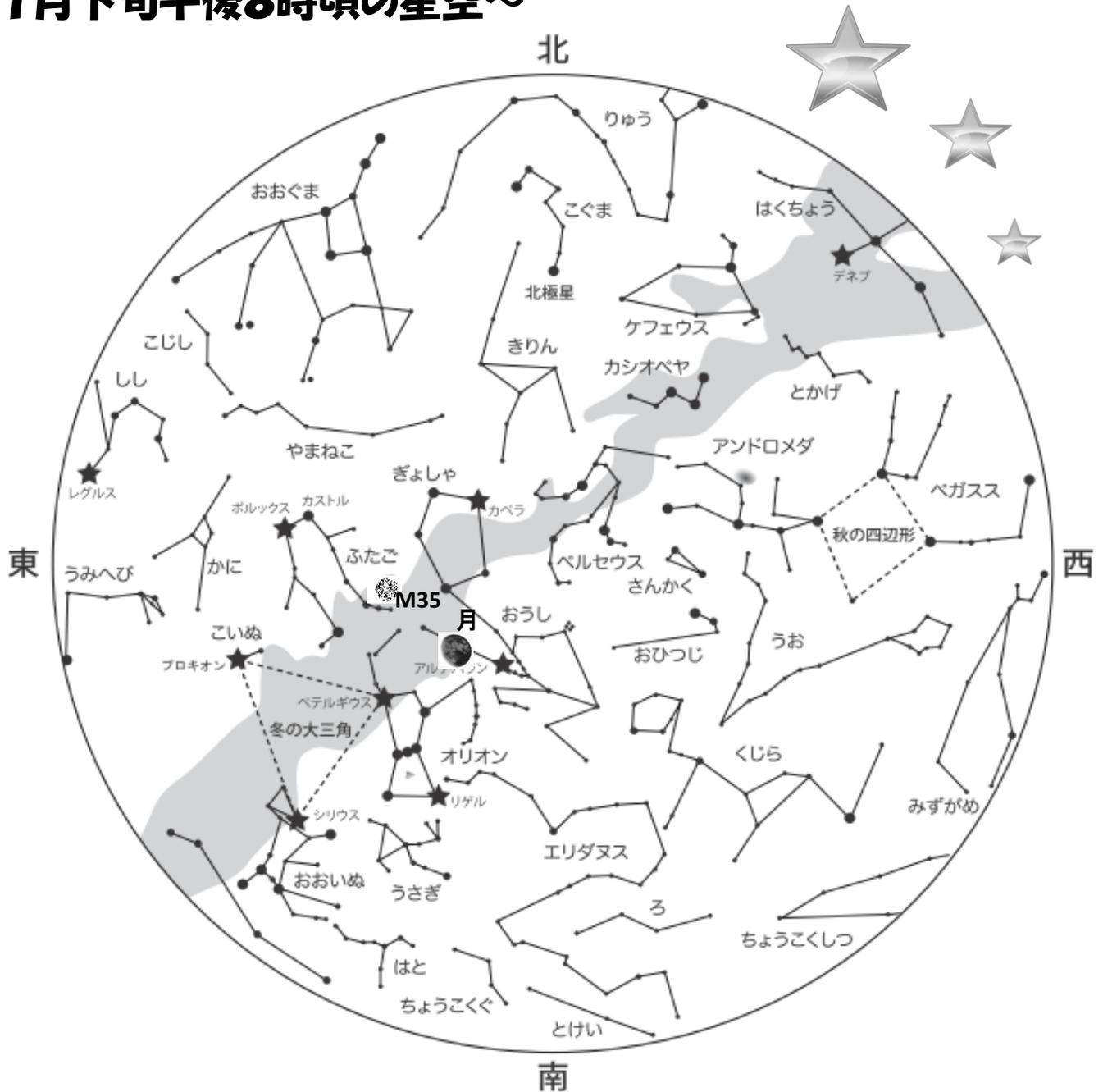


# 松江市立天文台～1月の天文教室～

平成28年 1月20日

## 1月下旬午後8時頃の星空～



今は冬本番ですが、日は少しずつ長くなっているのを実感します。  
夕暮れ時は秋の星座が西の空に見えています、時間とともに冬の星座が東の空に昇ってきます。冬の星座はオリオン座、おうし座、ぎよしゃ座など町中でも見つけやすい星が多いので、暖かくして探してみたいと思います。

1月下旬午後8時頃の星空です。  
月の位置は1月20日のもので、見かけの大きさは強調してあります。  
この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょう。

## 今夜の月

月は地球から約38万キロメートルの距離にある、地球の唯一の天然の衛星です。その起源は多くの謎につつまれており、最近では45億年前の原始地球と火星サイズの天体が衝突して月が形成されたとの説が有力になっています。

今夜の月は月齢10、上弦の月より幾分ふっくりとふくらんだ月です。

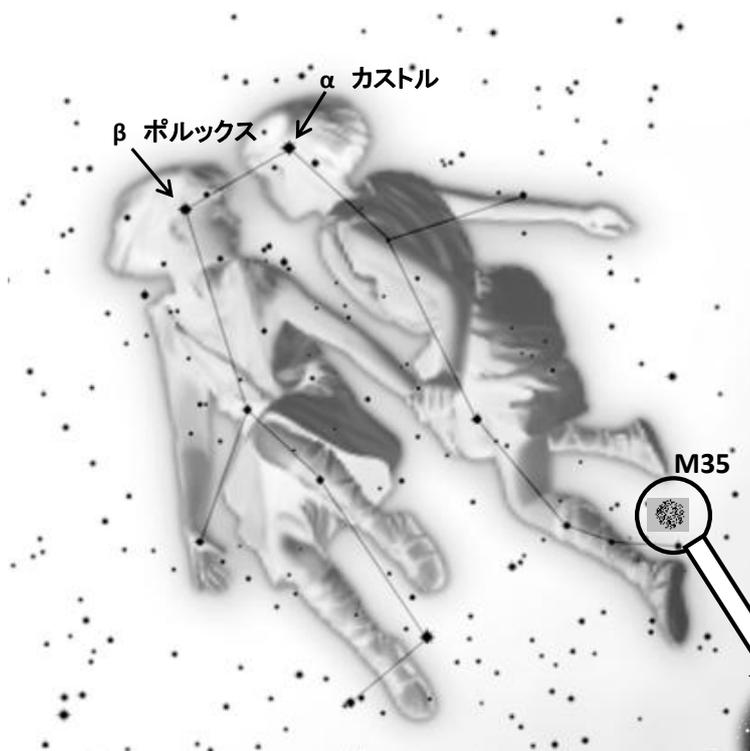
この時期の月は、太陽の光が少し斜めに当たるため地形の凹凸が、より楽しめます。



## ふたご座

ふたご座はその名のとおり、ギリシャ神話に登場する双子の兄弟を表しており、兄弟の名前「カストル」と「ポルックス」がそれぞれα星とβ星に付けられています。

二つの星を兄弟にみだてているのは日本も同じで、フタツボシ、キョウダイボシなどの和名が伝わっています。



ふたご座のα星カストルは1.6等の星ですが、1.9等と2.8等の二つの星からなる二重星です。二つの星の位置が近いので、観察するには、少し大きめの望遠鏡が必要です。

この二つの星はお互いが回りあう「連星」ですが、実はそれぞれが3連星で、全部で6個の星が回りあっている6連星です。

こんな星にもし、惑星があつて人間が住んでいたら、夜を経験しないかもしれません。

M35はふたご座にある散開星団で、2,570光年の距離にあります。双眼鏡でも、星の集団が確認でき、小型の望遠鏡では、たくさんの星々が視野一杯に拡がって見えます。

資料のデータ、数値は天文年鑑、アストローツから引用しています。使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えます。また、空のコンディション(雲、透明度)により、天体の見え方は違います。

## 次回の天文教室

開催日 2月17日(水) 20時から21時まで  
(受付は19時30分から市役所正面玄関で行います。)  
事前の予約は不要です。



★ MAC Matsue Astronomy Club  
松江星の会